

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年2月21日 NO.88

オー君 「あれ！あそこにいるのは、モンタ博士みたいだ。」

花ちゃん 「モンタ博士、何をしていますのですか。」

モンタ博士 「いや、ちょっとね。雪がとけてロゼットが見やすくなったので、スケッチしていたのさ。」

オー君 「え？ロケットがどうしたって？」

モンタ博士 「ロケットじゃないよ。ロゼットというのさ。」

オー君 「おいら、初めて聞く言葉（ことば）だな。」

花ちゃん 「何ですか。そのロゼットというのは？」

モンタ博士 「寒（さむ）くなっても葉っぱをバラの花びらの

ように地面（じめん）に開いて、平べったく地面にはりついているだろう。こういうのをロゼットというのさ。バラのことをローザというんだけど、バラ、つまりローザみたいなのでロゼットというのさ。」

オー君 「ふーん。ロゼットか。どれもよくにているようだけど、よく見ると種類（しゅるい）によってちがうみたいだな。」

モンタ博士 「その通り。よく見るとちがうだろう。スケッチしていると、いろいろなちがいに気がつくよ。ところでね、このロゼットというのを見て、何か気がついたことはないかな。」

花ちゃん 「ロゼットの形はそれぞれちがっているけど、にていることがあるわ。」

オー君 「どれもみんな背（せ）が低いね。それから、どの



ヒメジョオン（キク科）

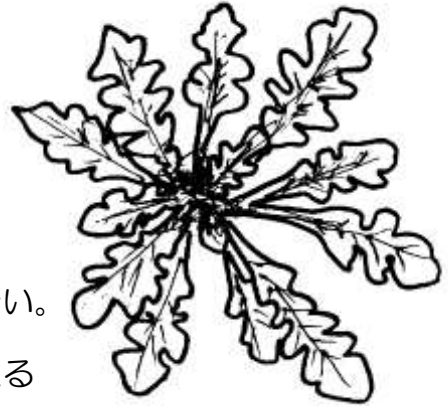


ヒメムカシヨモギ（キク科）



タンポポ（キク科）

ロゼットも真ん中を中心に、四方八方
（しほうはっぽう…あちらこちら）にの
びているな。なんだか風車（かざぐるま）
みたいだ。」



ナズナ（アブラナ科）

モンタ博士「その通りだね。でも、それで終わっちゃいけない。
それがどういう意味（いみ）があるかを考える
ことが楽しいんだよ。」

花ちゃん 「うーんと。えーっと。背（せ）が低（ひく）いということは、地面（じめん）
にはりついているということは、北風がふいても平気（へいき）ということ
かしら。それから・・・平べったければ、もし雪がたくさんふっても、雪の
重（おも）さにたえられるということかもしれないわ。」

オー君 「それから、植物というのは成長（せいちょう）するためにどうしても太陽の
光が必要（ひつよう）だったんだよね。ロゼットのように葉っぱがあっちこ
っちに広がっているということは、太陽の光をそれだけたくさん受けられる
ということかもしれないぞ。」

モンタ博士「そうだね。二人ともよく考えたね。たいしたものだ。ふだん何気なく見てい
るものでも、好奇心（こうきしん—めずらしいことや不思議なことを知りた
いと思う心）をもって見るのが大切だね。」

花ちゃん 「よく考えると、植物ってたいしたものね。こういうのを自然のしくみがよく
できているっていうのかな。植物の知恵（ちえ）というのかしら…」

好奇心をいつも持ち続けよう！

教育心理学的な側面から考えて、摩訶不思議な事・未知なる物に対する好奇心・探求心は、幼児期が
一番顕著であると言われています。それは、外界との接点を持ち始めた者の特権であるようにも思えま
す。しかし、それが成長とともに、次第に薄れていくのも事実です。いつまでも少年期のような瑞々（み
ずみず）しい感性や、常にあふれる好奇心や知的探求心を持ち続ける大人でありたいと思う今日この頃
であります。

お願い！お知らせ！

○明日22日（土）は、本年度最後の学校公開です。多くの皆様の
ご参観を心よりお待ちしております。是非、ご来校下さい。

○校長室となりの小会議室（七小ふるさと資料館・モンタ博士ラボ
ラトリー）も開放致します。お好きな時に、ご自由にご覧下さい。